片柳中学校だより

片　柳

第１１号　令和７年２月３日発行
さいたま市立片柳中学校
さいたま市見沼区大字御蔵５５１
ＴＥＬ０４８－６８３－３１７３

<学校教育目標>　夢をはぐくむ学校　○自ら学ぶ生徒　○心豊かな生徒　○心身を鍛える生徒

教師となって43年　その2　　学びの質的転換

校　長　　加藤　明良

朝晩は冷え込む日が続いていますが、日中の日差しや水仙、梅の花に春を感じるようになってきました。３年生は県内私立高校の入試が終わり、県公立高校入試に向けて、これまでの人生の中で最も勉強に励んでいることと思います。あと少しでそれぞれの春がやってくることを期待したいと思います。

さて、今回は学びの変化、特に入試について思うところを述べたいと思います。私が小、中、高校生だった５０年以上前、偏差値が導入され、偏差値による高校や大学の序列化が一気に進みました。この傾向は現在も続いています。テストの点数を１点でも多く獲得することが勉強の目的となり、その結果が自分の進路に大きく影響していきます。教員になって１０年目くらいの時に、行き過ぎた偏差値教育を改めようと当時の県教育長が偏差値の活用を一切止める方針を出し、学校での業者テストが廃止され、偏差値に頼らない進路指導が行われるようになりました。しかし、現実は高校選択の物差しとして偏差値は残り、学校外で業者テストが数多く実施され、私立高校については保護者が入試相談に出向き事前に合否がほぼ決まるシステムが続いています。つまり、学ぶ目的の一つである入試については５０年以上あまり変化がない状況です。

一方、埼玉県公立高校入試に関しては、ようやく現在の１年生から調査書の記述内容が大幅に削減され、全校で面接が導入されるなどの改革が始まります。大学入試についても、数年前に共通テストの大改革(記述式や英語スピーキングテストの導入)は失敗しましたが、問題の質的な改善は図られつつあり、単なる暗記や問題練習だけでは正解できず、読解力、思考力、判断力が求められる問題が増えています。また、少子化で大学の半数が定員割れ、AO 入試や推薦入試の合格者が定員の半数を占めるなど、最近大きな変化が起きています。

このように入試が大きな変化に向かっているのはなぜでしょうか。日本という国の姿が少子高齢化、グローバル化、AI や IoT などデジタル社会の到来によって大きく変化しているからだと考えます。単なる知識は AI がすべて答えてくれます。多くの労働はロボットに替わり、仕事の中身が大きく変化しています。個人が趣味で作成したモノに世界中から注文が舞い込むなど、このような時代にどんな学びが必要なのか。学びを通してどんな力を身に付けていく必要があるのか、中学生のみなさんも考えてほしいと思います。

振り返って考えてみると、私は教師になったときからテストの点数を取ることだけを目的に授業をしてきたことはありません。生徒に理科の楽しさ、面白さを感じてもらうこと、難しいことも、いかに分かりやすく説明し、理解を深めるか、こんな点を目標にしてきました。最近は、何のために、なぜ理科を学ぶのか、これを考えることも大切だと感じています。学校で学ぶ意味や意義は何なのか。授業で生徒にどんな力を身につけさせればよいのか、もはや教科書の知識を暗記し、練習問題を解くだけの力では通用しないことは明らかです。学びの質的転換が求められていると感じています。